

朝倉とともに 2018.12.1

防災士 朝倉災害支援ボランティア活動センター

代表 天野 時生 副代表 橋本 康弘

災害から立ち上がる普門院

12月1日(土)昨年支援活動を行った朝倉市杷木志波の国指定重要文化財「普門院」に訪問した。被災当時、本堂へ続く参道は土砂が1メートルほど堆積し、池に架かる石橋は完全に埋まり、石碑



も一部だけなんとか顔を出していた状況だった。現在、土砂は撤去され参道はほとんど被災前の状態に戻っていた。そして本堂は何もなかったかのように凜とした佇まいを見せていた。

参道の入口にある県指定の天然記念物「ビヤクシン」の樹の周辺も土砂は茂っていた樹木とともに撤去されたが、一部土砂に耐えた紅葉は紅く色づき「負けない」と訴えているようだった。

第30号

九州北部豪雨で亡くなられた方々には心からお見舞い申し上げます。ともに早期の復旧・復興を祈念します。



午前10時から今年最後の志波柿の収穫作業が行われた。細い山道を登っていくと柿畑があり、ここでは20本ほどの柿の木が植えられていたが土砂崩れで真ん中の6本ほどが流されてしまった。西側の山の土砂が崩れた跡がくっきりと残る傍らで、それでも豪雨に耐えた柿の木から収穫を行った。天候も良く、12月とは思えぬ暖かな日差しの中で午後3時頃まで行われた。

明日へ赤く燃える希望の柿

この日は、25ケース、約500キロの柿を収穫できた。これまでの収穫は熟れ具合を見ながら収穫してきたが、収穫最終日は全ての柿を残さず摘んでいく。来年へ向けての重要な作業でもある。この後、選別され選果場へ運ばれ店頭へ並べられる。山々を見渡すとまだ収穫されていない柿が赤く燃えているように見えた。

